

2022年度京大数学（文系）の解答

tt0801

2025年1月24日

1 大問1

1.1 問題

$5.4 < \log_4 2022 < 5.5$ であることを示せ。ただし、 $0.301 < \log_{10} 2 < 0.3011$ であることは用いてよい。

1.2 解答

$$\begin{aligned}\log_4 2022 &= \frac{\log_{10} 2022}{\log_{10} 4} \\ &= \frac{\log_{10} 2 + \log_{10} 1011}{2 \log_{10} 2} \\ &= \frac{1}{2} + \frac{\log_{10} 1011}{2 \log_{10} 2} \quad (= A \text{ とおく})\end{aligned}$$

である。ここで、 $\log_{10} 1011 > \log_{10} 1000 = 3$ より、

$$\begin{aligned}A &> \frac{1}{2} + \frac{3}{2 \log_{10} 2} \\ &> \frac{1}{2} + \frac{3}{2 \cdot 0.3011} \quad (\because \log_{10} 2 < 0.3011) \\ &= \frac{33011}{6022} \\ &> 5.4\end{aligned}$$

なので、 $\log_4 2022 > 5.4$ である。

また、 $\log_{10} 1011 < \log_{10} 1024 = 10 \log_{10} 2$ なので、

$$\begin{aligned}A &< \frac{1}{2} + \frac{10 \log_{10} 2}{2 \log_{10} 2} \\ &= \frac{1}{2} + 5 \\ &= 5.5\end{aligned}$$

である。よって、 $\log_4 2022 < 5.5$ となる。

以上より、 $5.4 < \log_4 2022 < 5.5$ が示された。

1.3 解説

$\log_{10} 2$ の評価式が与えられているので, $\log_{10} 2$ を作ることを意識して式変形をする.

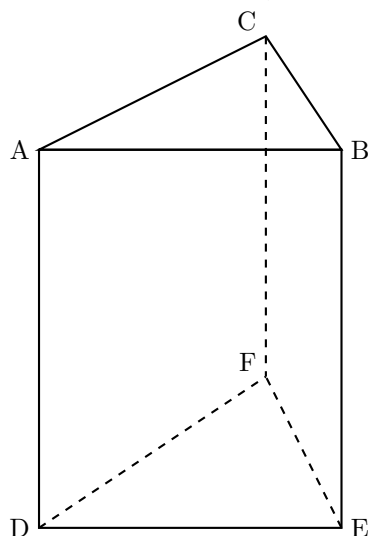
2 大問 2

2.1 問題

下図の三角柱 $ABC - DEF$ において, A を始点として, 辺に沿って頂点を n 回移動する. すなわち, この移動経路

$$P_0 \rightarrow P_1 \rightarrow P_2 \rightarrow \cdots \rightarrow P_{n-1} \rightarrow P_n \quad (\text{ただし } P_0 = A)$$

において, $P_0P_1, P_1P_2, \dots, P_{n-1}P_n$ はすべて辺であるとする. また, 同じ頂点を何度通ってもよいものとする. このような移動経路で, 終点 P_n が A, B, C のいずれかとなるものの総数 a_n を求めよ.



2.2 解答

各頂点から隣接する他の頂点に移動する方法は, 3 通りである. よって, n 回移動した時の全ての経路の場合の数は, 3^n である. $b_n = 3^n - a_n$ とおくと, 終点 P_n が D, E, F のいずれかとなるものの総数である.

P_n が頂点 A, B, C のいずれかにいる時, P_{n+1} が再び頂点 A, B, C のいずれかにいる経路は 2 通りである. 一方で, P_n が頂点 D, E, F のいずれかにいる時, P_{n+1} が頂点 A, B, C のいずれかにいる経路は 1 通りである. 以上より,

$$\begin{aligned} a_{n+1} &= 2a_n + b_n \\ &= 2a_n + (3^n - a_n) \\ &= a_n + 3^n \end{aligned}$$

を得る. $a_0 = 1$ とおけば, この漸化式は 0 以上の整数 n で成立する. $n \geq 1$ の場合は,

$$\begin{aligned} a_n &= a_0 + \sum_{k=0}^{n-1} (a_{k+1} - a_k) \\ &= 1 + \sum_{k=0}^{n-1} 3^k \\ &= 1 + \frac{3^n - 1}{3 - 1} \\ &= \frac{3^n + 1}{2} \end{aligned}$$

が成り立つ. これは, $n = 0$ の場合も成立.

以上より,

$$a_n = \frac{3^n + 1}{2}.$$

2.3 解説

P_n の位置について, 事象は次の 2 通りしかない.

- P_n は A, B, C のいずれか,
- P_n は D, E, F のいずれか.

図の対称性から, これらの事象について漸化式を立てられそうだと見通しがつく.

3 大問 3

3.1 問題

xy 平面上の 2 直線 L_1, L_2 は直交し, 交点の x 座標は $\frac{3}{2}$ である. また, L_1, L_2 はともに曲線 $C: y = \frac{x^2}{4}$ に接している. このとき, L_1, L_2 および C で囲まれる図形の面積を求めよ.

3.2 解答

$f(x) = \frac{x^2}{4}$ とおく. $f'(x) = \frac{x}{2}$ である. L_1 と C の接点の座標を $(p, f(p))$, L_2 と C の接点の座標を $(q, f(q))$ とおく. L_1 は $x = p$ における C の接線であるので, その方程式は $y - f(p) = f'(p)(x - p)$, すなわち,

$$y = \frac{p}{2}x - \frac{p^2}{4} \tag{1}$$

である. 同様に L_2 の方程式は,

$$y = \frac{q}{2}x - \frac{q^2}{4} \tag{2}$$

で与えられる. L_1, L_2 は直交するので, 傾きの積 $\frac{p}{2} \cdot \frac{q}{2}$ が -1 に等しい. よって,

$$pq = -4. \tag{3}$$

特に $p \neq q$ である. また, L_1 と L_2 の交点の座標は, 方程式 (1), (2) を連立して, $\left(\frac{p+q}{2}, \frac{pq}{4}\right)$ と分かる. 問題文の条件より $\frac{p+q}{2} = \frac{3}{2}$, すなわち

$$p+q=3 \quad (4)$$

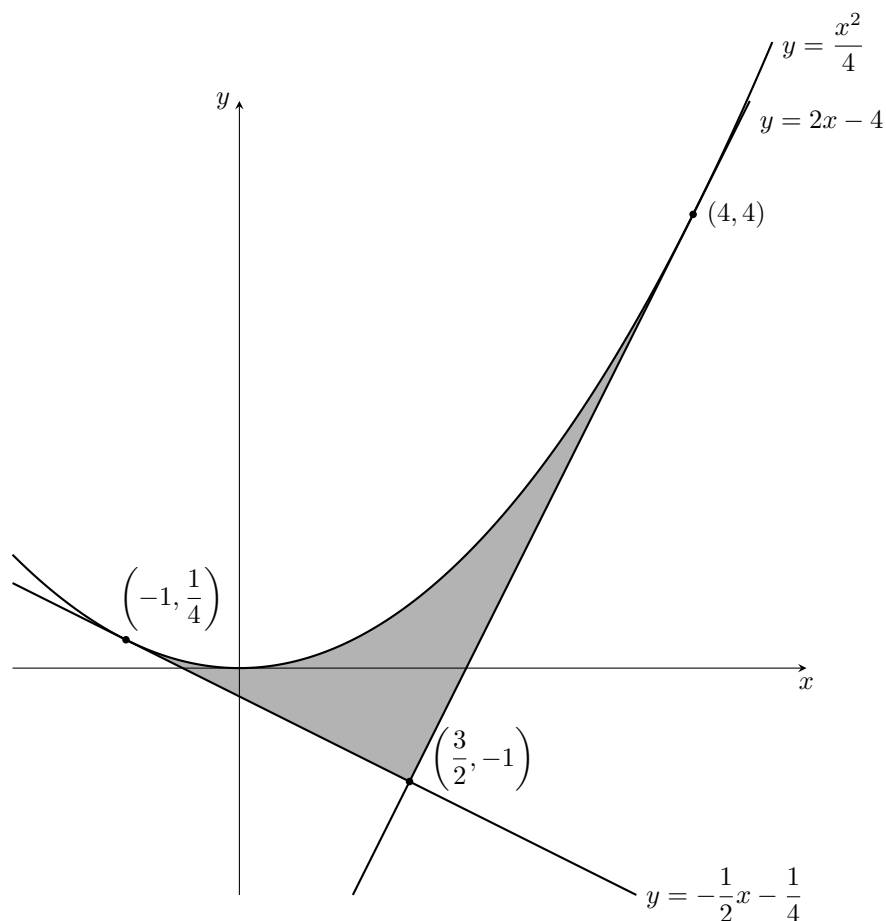
である. 式 (3),(4) より, p, q は t についての二次方程式 $t^2 - 3t - 4 = 0$ の解である. 因数分解して $(t-4)(t+1) = 0$ なので,

$$(p, q) = (-1, 4)$$

として一般性を失わない. この時,

$$\begin{aligned} L_1 : y &= -\frac{1}{2}x - \frac{1}{4}, \\ L_2 : y &= 2x - 4. \end{aligned}$$

である.



求める面積 S は上図の色塗られた領域の面積であるから、

$$\begin{aligned}
 S &= \int_{-1}^{\frac{3}{2}} \frac{x^2}{4} - \left(-\frac{1}{2}x - \frac{1}{4}\right) dx + \int_{\frac{3}{2}}^4 \frac{x^2}{4} - (2x - 4) dx \\
 &= \int_{-1}^{\frac{3}{2}} \frac{1}{4} (x+1)^2 dx + \int_{\frac{3}{2}}^4 \frac{1}{4} (x-4)^2 dx \\
 &= \left[\frac{1}{12} (x+1)^3 \right]_{-1}^{\frac{3}{2}} + \left[\frac{1}{12} (x-4)^3 \right]_{\frac{3}{2}}^4 \\
 &= \frac{1}{12} \left(\frac{5}{2}\right)^3 - \frac{1}{12} \left(-\frac{5}{2}\right)^3 \\
 &= \frac{125}{48}
 \end{aligned}$$

と求まる.

以上より、求める面積は $\frac{125}{48}$ である.

3.3 解説

覚える必要は全くないが、問題の面積は、いわゆる $\frac{1}{6}$ 公式で求まる面積の半分なので、知っていれば検算は容易である.

4 大問 4

4.1 問題

a, b を正の実数とする. 直線 $L: ax + by = 1$ と曲線 $y = -\frac{1}{x}$ との 2 つの交点のうち、 y 座標が正のものを P , 負のものを Q とする. また、 L と x 軸の交点を R とし、 L と y 軸の交点を S とする. a, b が条件

$$\frac{PQ}{RS} = \sqrt{2}$$

を満たしながら動くとき、線分 PQ の中点の軌跡を求めよ.

4.2 解答

4 点 P, Q, R, S は全て直線 L 上にあるので PQ と RS の比は、「2 点 P, Q の x 座標の差」と「2 点 R, S の x 座標の差」の比に一致する. R の座標は $\left(\frac{1}{a}, 0\right)$, S の座標は $\left(0, \frac{1}{b}\right)$ なので、2 点 R, S の x 座標の差は $\frac{1}{a}$ である. $y = -\frac{1}{x}$ を $ax + by = 1$ に代入して、式を整理すると

$$ax^2 - x - b = 0$$

を得る. 判別式 D は $D = 1 + 4ab > 0$ であるので、正の実数 a, b の値によらず、異なる二つの実数解 $x = p, q$ ($p > q$) を持つ. 二次方程式の解と係数の関係より、

$$p + q = \frac{1}{a}, \quad pq = -\frac{b}{a}$$

である. 特に $pq < 0$ なので, $p > 0 > q$ である. また, 2 点 P, Q の x 座標の差の 2 乗は,

$$(p - q)^2 = (p + q)^2 - 4pq = \frac{1 + 4ab}{a^2}$$

である. よって,

$$\begin{aligned} 2 &= \left(\frac{PQ}{RS} \right)^2 \\ &= \left(\frac{2 \text{ 点 P, Q の } x \text{ 座標の差}}{2 \text{ 点 R, S の } x \text{ 座標の差}} \right)^2 \\ &= \frac{1 + 4ab}{a^2} \\ &= \frac{1}{a^2} \\ &= 4ab + 1 \end{aligned}$$

である. ゆえに, $ab = \frac{1}{4}$.

P の座標は $\left(p, -\frac{1}{p}\right)$, Q の座標は $\left(q, -\frac{1}{q}\right)$ であるから, 線分 PQ の中点の座標 (X, Y) は,

$$X = \frac{p + q}{2}, \quad Y = -\frac{p + q}{2pq}$$

を満たす. $p + q = \frac{1}{a}$, $pq = -\frac{b}{a}$ を代入して,

$$X = \frac{1}{2a}, \quad Y = \frac{1}{2b}$$

である. a, b は正の実数なので, X, Y も正の実数であり,

$$a = \frac{1}{2X}, \quad b = \frac{1}{2Y} \tag{5}$$

を $ab = \frac{1}{4}$ に代入して, $XY = 1$ を得る. すなわち, 線分 PQ の中点は, 双曲線 $y = \frac{1}{x}$ ($x > 0$) 上に存在する.

逆に, 双曲線 $y = \frac{1}{x}$ ($x > 0$) の上の点 (X, Y) に対して, (5) を満たす a, b を与えれば, a, b は正の実数であり, 確かに P, Q, R, S を考えることができ,

$$\left(\frac{PQ}{RS} \right)^2 = 2$$

が成り立つ. すなわち, $\frac{PQ}{RS} = \sqrt{2}$ を満たす. そして, 線分 PQ の中点の座標は (X, Y) である.

以上より, 求める軌跡は双曲線 $y = \frac{1}{x}$ ($x > 0$) である.

4.3 解説

十分性の確認を忘れないこと.

5 大問 5

5.1 問題

四面体 $OABC$ が

$$OA = 4, OB = AB = BC = 3, OC = AC = 2\sqrt{3}$$

を満たしているとする. 点 P を辺 BC 上の点とし, $\triangle OAP$ の重心を G とする. このとき, 次の各問に答えよ.

- (1) $\overrightarrow{PG} \perp \overrightarrow{OA}$ を示せ.
- (2) P が辺 BC 上を動くとき, PG の最小値を求めよ.

5.2 解答

- (1) 一次独立なベクトル $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}, \overrightarrow{OC}$ に着目する.

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} &= \frac{|\overrightarrow{OA}|^2 + |\overrightarrow{OB}|^2 - |\overrightarrow{AB}|^2}{2} \\ &= \frac{16 + 9 - 9}{2} \\ &= 8, \\ \overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OC} &= \frac{|\overrightarrow{OB}|^2 + |\overrightarrow{OC}|^2 - |\overrightarrow{BC}|^2}{2} \\ &= \frac{9 + 12 - 9}{2} \\ &= 6, \\ \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC} &= \frac{|\overrightarrow{OA}|^2 + |\overrightarrow{OC}|^2 - |\overrightarrow{AC}|^2}{2} \\ &= \frac{16 + 12 - 12}{2} \\ &= 8.\end{aligned}$$

点 P は辺 BC 上にあるので, 0 以上 1 以下の実数 t を用いて

$$\overrightarrow{OP} = t\overrightarrow{OB} + (1-t)\overrightarrow{OC}$$

と表せる. 点 G は $\triangle OAP$ の重心なので,

$$\overrightarrow{OG} = \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{3}\overrightarrow{OP}$$

だから,

$$\begin{aligned}\overrightarrow{PG} &= \overrightarrow{OG} - \overrightarrow{OP} \\ &= \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} - \frac{2}{3}\overrightarrow{OP} \\ &= \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} - \frac{2}{3}t\overrightarrow{OB} - \frac{2}{3}(1-t)\overrightarrow{OC}\end{aligned}$$

である. 特に, \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OB} , \overrightarrow{OC} の係数が全て 0 になることはないので, 2 点 P, G は一致しない.

$$\begin{aligned}\overrightarrow{PG} \cdot \overrightarrow{OA} &= \frac{1}{3}|\overrightarrow{OA}|^2 - \frac{2}{3}t\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OA} - \frac{2}{3}(1-t)\overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{OA} \\ &= \frac{1}{3} \cdot 16 - \frac{2}{3}t \cdot 8 - \frac{2}{3}(1-t) \cdot 8 \\ &= 0\end{aligned}$$

で, $PG > 0$, $OA = 4 > 0$ なので, $\overrightarrow{PG} \perp \overrightarrow{OA}$ が導けた.

(2) $|\overrightarrow{PG}|^2$ の最小値について考える.

$$\begin{aligned}|\overrightarrow{PG}|^2 &= \overrightarrow{PG} \cdot \overrightarrow{PG} \\ &= \overrightarrow{PG} \cdot \left(\frac{1}{3}\overrightarrow{OA} - \frac{2}{3}t\overrightarrow{OB} - \frac{2}{3}(1-t)\overrightarrow{OC} \right) \\ &= -\frac{2}{3}t\overrightarrow{PG} \cdot \overrightarrow{OB} - \frac{2}{3}(1-t)\overrightarrow{PG} \cdot \overrightarrow{OC}\end{aligned}$$

である.

$$\begin{aligned}\overrightarrow{PG} \cdot \overrightarrow{OB} &= \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} - \frac{2}{3}t|\overrightarrow{OB}|^2 - \frac{2}{3}(1-t)\overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{OB} \\ &= \frac{1}{3} \cdot 8 - \frac{2}{3}t \cdot 9 - \frac{2}{3}(1-t) \cdot 6 \\ &= -2t - \frac{4}{3}, \\ \overrightarrow{PG} \cdot \overrightarrow{OC} &= \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC} - \frac{2}{3}t\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OC} - \frac{2}{3}(1-t)|\overrightarrow{OC}|^2 \\ &= \frac{1}{3} \cdot 8 - \frac{2}{3}t \cdot 6 - \frac{2}{3}(1-t) \cdot 12 \\ &= 4t - \frac{16}{3}\end{aligned}$$

なので,

$$\begin{aligned}|\overrightarrow{PG}|^2 &= -\frac{2}{3}t\overrightarrow{PG} \cdot \overrightarrow{OB} - \frac{2}{3}(1-t)\overrightarrow{PG} \cdot \overrightarrow{OC} \\ &= -\frac{2}{3}t \left(-2t - \frac{4}{3} \right) - \frac{2}{3}(1-t) \left(4t - \frac{16}{3} \right) \\ &= 4t^2 - \frac{16}{3}t + \frac{32}{9} \\ &= 4 \left(t - \frac{2}{3} \right)^2 + \frac{16}{9} \\ &\geq \frac{16}{9}.\end{aligned}$$

等号成立条件は, $t = \frac{2}{3}$ であり, これは $0 \leq t \leq 1$ を満たす. このとき, 点 P は辺 BC を 1:2 に内分する点である. また, $PG = \sqrt{|\overrightarrow{PG}|^2} = \frac{4}{3}$.

以上より, 点 P は辺 BC を 1:2 に内分する点である時, PG は最小値 $\frac{4}{3}$ をとる.

5.3 解説

ベクトルの問題では, 基底 (一次独立かつ, 空間の任意のベクトルが基底のベクトルの一次結合で表せる) に着目して式変形しよう. 本問では例えば, $\{\vec{OA}, \vec{OB}, \vec{OC}\}$ が基底である.